

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 27 日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2017

課題番号：16K16764

研究課題名(和文)大正期旧制中等教育国語教科書収録作品の研究

研究課題名(英文) Research on literary works included in Japanese language textbooks for the secondary education under the old system in the Taisho period

研究代表者

田鎖 数馬 (Tagusari, Kazuma)

高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・准教授

研究者番号：70437705

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、大正期の旧制中等教育の国語教科書に収録された谷崎潤一郎・菊池寛・志賀直哉・芥川龍之介の作品の表現や内容を、原作のそれと比較し、両者の相違に関する問題を考察することを目的としている。具体的には、主として、次の三点の研究を行った。第一に、両者の表現や内容の異同表を作成した。第二に、学習指導要領等を参考にすることによって、後者が前者に書き換えられた理由を明らかにしようと試みた。第三に、後者の一部を書き換えた結果として、前者において何が失われてしまったのかを考察した。これらの三点に基づく研究を今後さらに追求していく予定である。

研究成果の概要(英文)：This project aims to compare expressions and contents of literary works of Junichiro Tanizaki and Kan Kikuchi and Naoya Shiga and Ryunosuke Akutagawa which are included in Japanese language textbooks for the secondary education under the old system in the Taisho period with those of the original works, and to consider issues about differences between the two. Concretely I mainly did research into the following three points. Firstly, I made a list of differences between the two. Secondly, by referring government course guidelines and others, I attempted to clarify the reason why part of the latter was changed to the former. Thirdly, I considered what was lost in the former as a result of changing part of the latter. I plan to do further research based on these three points from now on.

研究分野：日本近代文学

キーワード：教科書 日本近代文学

1. 研究開始当初の背景

従来、旧制中等教育の国語科教科書に関する研究は、初等教育の場合と比較して十分に行われてこなかった。その要因としては、第一に、旧制中等教育では、初等教育よりも国定教科書を使用していた期間がはるかに短かったために、国家の政策展開に関わる問題として国語教育や国語科教科書を考察する視点が生まれにくかったということ、第二に、旧制中等教育の国語科教科書に収録された文学作品は多種多様であるため、焦点を絞りにくかったということが挙げられている(武藤清吾後掲書)。勿論、旧制中等教育の国語科教科書に関する研究が存在しないわけではない。この分野の本格的な研究としては、橋本暢夫『中等学校国語科教科書教材史研究』(平成十四年七月、溪水社)武藤清吾『芥川龍之介編『近代日本文芸読本』と「国語」教科書 教養実践の軌跡』(平成二十三年二月、溪水社)がある。前者は、教育科学の視点から、日本近代文学作品の教科書別収録状況、国語教材史上の位置と役割などを整理・分析した研究書で、後者は、芥川龍之介編『近代日本文芸読本』(大正十四年十一月、興文社)菊池寛編『新文芸読本』(大正十五年十二月)を中心に上げて、大正末期から昭和期にかけての国語教育の実践のあり方を解明した研究書である。どちらも、これまで十分に研究されてこなかった、旧制中等教育の国語科教科書の研究に正面から取り組み、貴重な成果を挙げている。もっとも、旧制中等教育の国語科教科書に収録された日本近代文学作品は膨大であり、両研究書ともそのほんの一部を取り上げたに過ぎない。また、両研究書は、教科書収録作品と原作とを比較・考察するという方法を用いているわけでもない。そのため、両研究書の成果を受け継ぎ、発展させていくためには、両研究書が取り上げていない教科書収録作

品を取り上げて、原作と比較・考察していくことが必要になると考えられる。

ただし、旧制中等教育の国語科教科書に収録された日本近代文学作品全てを研究するのは、相当の時間が必要である。そのため、その研究の第一歩として、両研究書で十分に考察の対象とされていない、大正期の、谷崎・菊池・志賀の作品を取り上げることにする。大正期を研究の対象とするのは、自由主義的風潮が強まった時代と一般に指摘される大正期において、文学作品が時代の制約をどれほど受けているのかを知ることに意義があると考えたからである。この三者を研究対象とすることによって、大正期の教育観や道徳観の一端を明らかにすることが本研究の狙いである。

本研究を着想するに至ったのは、応募者田鎖が「菊池寛「恩讐の彼方に」の改作について」(平成二十六年三月『京都大学国文学論叢』)という論文を執筆したことをきっかけにしている。この論文では、大正期、昭和期の国語科教科書に、菊池の「恩讐の彼方に」が多く収録されていたこと、いずれの教科書でも、原作にはあった主人殺害や夫婦殺害の残酷な場面の描写がことごとく省略されていたこと、菊池は国語科教科書に収録された「恩讐の彼方に」を実際に読み、関心を寄せていたことを指摘した。その後、この論文で言及した問題をさらに掘り下げていくために、「恩讐の彼方に」以外の作品も対象にして教科書収録作品と原作とを読み比べてみたところ、教科書に収録されるに際して、作品の世界を大きく変える省略や改変が相当に行われていたことを確認することができた。そのため、その省略や改変の箇所を調査することによって、当時の教育観や道徳観を知ることができると確信し、本研究に取り込むことを思い至った。

2. 研究の目的

本研究は、大正期の旧制中等教育の国語科教科書に収録された谷崎潤一郎、菊池寛、志賀直哉の作品を取り上げ、大正期の教育観や道徳観の一端を明らかにすることを目的としている。教科書の編集者は、文学作品を教科書に収録するに際して、教育上の観点から、省略・改変などの処理をかなり行っている。そのことを踏まえ、第一に、上記作家の作品に対していかなる省略・改竄を行ったのかを調査する。第二に、その調査に基づいて、教科書の編集者が文学作品を学生にどのように読ませようとしたのかを考える。第三に、省略・改変によって、原作から何が失われたのかを考える。こうした調査・分析によって、文学作品を教材として読ませることの背後にどのような思想が存在するのかを明らかにする。

1. 一年目の課題；谷崎潤一郎・菊池寛・志賀直哉のどの作品が、いかなる教科書のどこに収録されているのかを調査するとともに、教科書に収録された作品を可能な限り入手し、教科書別に、原作の文章との異同表を作成する。また、各々の教科書には、教員用の指導要領や参考書が備えられていることが多いので、省略や改変がなされた要因を探るための参考資料として、それらを手し、その内容を整理する。それから、収集・作成した資料に基づき、教科書の編集者が谷崎の作品を学生にどのように読ませようとしたのかを考察する。同時に、谷崎の原作の世界を丹念に読み、教科書で省略・改変された箇所は、原作においてどのような意味を持っていたのかを解き明かす。そのことによって、省略・改変によって、原作から何が失われたのかを明らかにする。

2. 二年目の課題；一年目に収集・作成した資料に基づき、教科書の編集者が菊池と志賀の作品を学生にどのように読ませようとしたのかを考察する。同時に、菊池と志賀の原作の世界を丹念に読み、教科書で省

略・改変された箇所は、原作においてどのような意味を持っていたのかを解き明かす。そのことによって、省略・改変によって、原作から何が失われたのかを明らかにする。最後に、谷崎と菊池と志賀の作品の教科書収録状況を比較し、作家の特質と教科書収録状況との関係を明らかにする。

3. 研究の方法

研究方法は、資料収集と資料分析の二つから成り立っている。まず、資料収集に関しては、『東書文庫所蔵教科用図書目録』（昭和五十四年十月）や『旧制中等教育国語科教科書内容索引』（昭和五十九年二月）などを活用して、大正期の旧制中等教育国語科教科書にはどのようなものがあり、各々の教科書のどこに、谷崎・菊池・志賀のどの作品が収録されているのかを調査する。その上で、大正期の教科書を多く所蔵している、国立教育政策研究所図書館や東書文庫などに足を運び、教科書に収録された谷崎・菊池・志賀の作品を収集する。資料分析に関しては、入手した資料に基づいて、教科書編集者が原作に対していかなる省略・改変を行ったのかを調べて、教科書別に整理するとともに、それに基づいて、編集者の道徳観や教育観、さらには、それに影響を及ぼしている同時代の道徳観や教育観を明らかにする。

4. 研究成果

旧制中等教育の国語科教科書に収録された大正期の、谷崎潤一郎・菊池寛・志賀直哉の作品に焦点を当て、これらの作品が、いかなる教科書のどこに収録されているのかを調査するとともに、教科書に収録された作品を可能な限り入手し、教科書別に、原作の文章にどのように改変されているのかを整理して、原作と教科書の文章との異同表を作成した。

また、各々の教科書には、教員用の学習指導要領や参考書が備えられていることが多いので、改変がなされた要因を探るための参考資料として、それらを手し、その内容を整理した。さらに、谷崎・菊池・志賀の原作の世界を丹念に読み、教科書で改変された箇所は、原作においてどのような意味を持っていたのか、改変によって原作から何が失われたのかを考察した。なお、調査の過程で芥川龍之介の教科書収録作品に焦点を当てることも必要であると考え、芥川作品も調査・考察の対象とした。そこからさらに、教科書編集者の教育観や道徳観、さらには、それに影響を及ぼしている同時代の教育観や道徳観を明らかにするために、資料収集を行った。最後に、谷崎と菊池と志賀と芥川の作品の教科書収録状況を比較し、各々の作家の特質や大正期の道徳観について考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

田鎖数馬「安部公房『燃えつきた地図』の世界」(平成二十九年十二月『高知大國文』) 査読無 48号 2017年 pp.1-30

田鎖数馬「谷崎潤一郎『吉野葛』小考」(平成二十九年六月『国語国文』) 査読無 86巻6号 2017年 pp.650-660

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1件)

國司航佑, 片山浩史編『越境する学問 ベネデット・クローチエ生誕150周年記念シンポジウム論集』(共著) 平成三十年二月、英明企画編集株式会社)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名 田鎖 数馬 (Tagusari Kazuma)
所属機関名 高知大学
部局 人文社会科学系人文社会科学部門
職名 准教授

研究者番号：70437705

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()